

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（総括・分担）研究年度終了報告書

抗原検出キットを用いたアメーバ赤痢の診断法に関する研究

研究分担者 小林 泰一郎 東京都立駒込病院・感染症科

研究要旨

アメーバ赤痢は、*Entamoeba histolytica* による腸管寄生虫症である。21世紀に入り、国内で急速に症例数が増加し、死亡例も毎年の如く報告されている。多くの症例は、性感染症を感染経路としており、同じく性感染症として流行している HIV感染者では高頻度かつ重症例が度々報告されている。一方で、国内のアメーバ赤痢の診断法は諸外国と比較して遅れており、糞便の直接検鏡法のみが保険診療で認められている状況である。本研究では、正確かつ迅速なアメーバ赤痢診断を可能とし、診断の遅れによる致死化を防ぐ目的で、主に迅速検出抗原キットの有用性を、HIV診療を行っている全国多施設で得られる臨床検体を用いて、PCR法と比較検証する。抗原検出キットの有用性が示された場合には、これを広く臨床に用いられるように働きかけを行う。

A) 研究目的

アメーバ赤痢を臨床現場で確実に診断できる診療体制を構築するために、日本での診療体制におけるイムノクロマトグラフィ法によるアメーバ抗原診断の有用性を検証する。

B) 研究方法

東京都立駒込病院は検体採取を行う協力研究機関として本研究に参加する。HIV感染者を含む受診者の中で、患者背景や臨床所見から担当医によりアメーバ赤痢の可能性が考えられた者の検体に通常の直接検鏡検査を実施し、残余検体に対してイムノクロマトグラフィキットによる抗原検出検査を行った後、PCR法による遺伝子増幅検査のために国立感染症研究所に検体を送付する。

C) 研究結果

2018年10月から2019年12月までに177検体を採取し、直接検鏡検査で

*Entamoeba* が8検体で検出され、ジアルジア2検体、無鉤糸虫1検体、広節裂頭条虫1検体、陰性165検体であった。また、イムノクロマトグラフィ法による迅速抗原検査の結果は、8検体で陽性であった。

2019年7月に国際エイズ会議（IAS）、2019年12月に日本エイズ学会学術集會に参加させて頂き、HIV感染症とその合併症に関する専門家とHIV感染者に合併するアメーバ症について活発な議論を行った。

D) 健康危険情報

E) 研究発表

小林 泰一郎、藤原 翔、福島 一彰、田中勝、矢嶋 敬史郎、味澤 篤、今村 顕史：赤痢アメーバ症と、HIV感染症を含むその他の性感染症の関連。第33回日本エイズ学会学術集會。2019年11月。熊本

F) 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

